

(5) マングローブ域漁場の水産生物

名蔵川河口域は石垣島では図-2に示されるように比較的大規模なマングローブ群落を形成している。海側に小島 (Sand bar) があり、小島と陸側のマングローブ域との間に潟湖が形成されている。面積は約75 ha。低潮時は干潟域の約50%が干出する。また小島の200~300 m沖合にアジモ帯がベルト状に形成されている。

マングローブ域及び干潟域において斧足類(二枚貝類)は80種以上出現する。そのうち有用種はマングローブシジミ, ヒルギンシジミ, ハザクラガイ, アラスジケマンガイ, ヤエヤマスダレの5種があげられる。また、巻貝類のネジヒダカワニナ, カミモリガイ科の一種が大量に出現する。しかし食用に供し得ない。むしろマングローブ干潟域において食物連鎖の重要な位置づけにあるものと思われる。

カニ類ではシオマネキ, ハクセンシオマネキ, オサガニ, コメツキガニ, ミナミコメツキガニ等が干潟域に出現する。マングローブ林及び縁辺域にノコギリガザミが生息する。有用カニ類はノコギリガザミ *Scylla serrata* だけである。

小島外側のアジモ場 (Zostere zone) に出現した魚種は30科以上219種に達している。主な出現魚種は次のとおりである。ウツボ科, エソ科, イットウダイ科, ヒメジ科, テンジクダイ科, ハタ科, クロサギ科, フェフキダイ科, イトヨリダイ科, フェダイ科, タカサゴ科, ヘビギンボ科, ハゼ科, スズメダイ科, ベラ科, アイゴ科, ブダイ科等である。このうちマングローブ域漁場に分布するのは、ゴマアイゴ, ゴマフェダイ, ハゼ科 sp 等である。

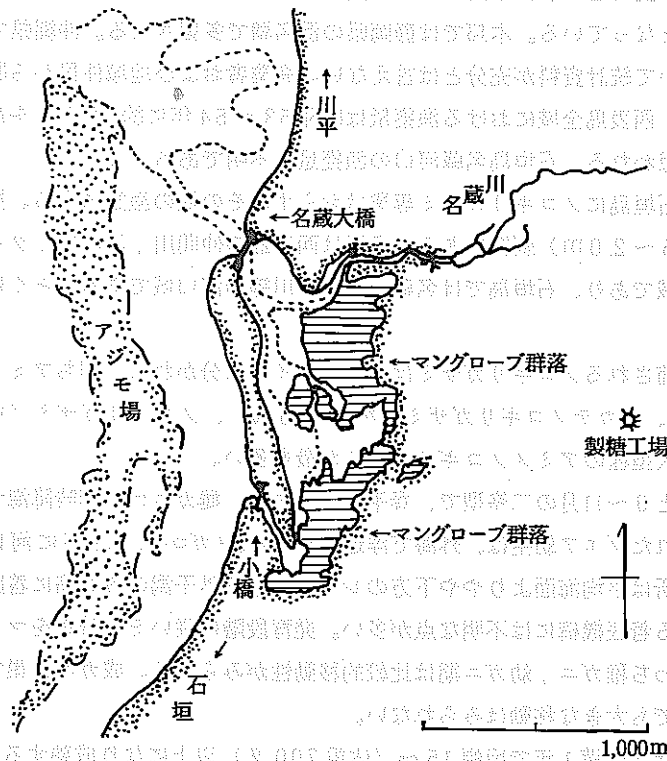


図-2 名蔵川河口域